

## 発達支援相談の充実

アナ： 「市長が語る 2024 三島」第10回の今日は、「発達支援相談の充実」についてお話を伺います。豊岡市長、よろしくお願いします。

市長： よろしく申し上げます。

アナ： 三島市では、今年度から「こども・健幸まちづくり部」が創設されましたね。まちづくりをしていく上で子ども・子育てや健幸といったことを大切にしていこうという三島市のお考えを強く感じました。

さて、お子さんの健やかな成長を願う親御さんにとって、幼少期の「発達」の進み具合は、たいへん気になる事と思いますが、三島市には子どもの発達を支援する部署が設けられているそうですね。

市長： はい。三島市では、平成30年度に「発達支援課」を立ち上げまして、現在は、錦田こども園内に設置している発達支援センター「たんぽぽ」で幼児期から小・中学生までの学齢期の子どもを対象に相談支援を行っています。

アナ： 「たんぽぽ」では、具体的にどのようなことをされていらっしゃるのですか。

市長： 発達支援センター「たんぽぽ」には、相談員のほか、臨床心理士や保健師、作業療法士、保育士や教育委員会からの学校指導主事等を配置しております。

これら専門職の職員が、面談をはじめ幼稚園・保育園や学校への訪問、また、必要に応じて発達検査などを行い、対象となる子どもの状態を把握し、親御さんや通っている幼稚園・保育園の保育士、あるいは学校の先生方に、その子とのより良い接し方についてのアドバイスを行っています。

アナ： なるほど。「たんぽぽ」は、お子さんとそれをサポートする人とを円滑につなげる役割を担っているということですね。

市長： その通りです。

その他にも、ペアレントトレーニングや保護者向けの講座を開催するなど、様々な角度から、お子さんご本人やご家族の困りごとの解消や負担軽減に向けた支援を行っています。

アナ： 更なる支援体制の充実をお考えでしょうか。

市長： はい。近年の傾向として、幼稚園や保育園、小・中学校から寄せられる相談が多くなってきております。

そこで、課題の早期発見や早期療育のため、また、幼児期から学齢期にかけての相談体制の一層の充実を目的に、今年度は、「たんぽぽ」に臨床心理士を1名増員いたしました。

アナ： 支援体制がますます充実してきていますね。

「たんぽぽ」は今後どのような展開を目指していらっしゃるのでしょうか。

市長： 「たんぽぽ」は、「乳幼児期」、「学齢期」、「思春期」、「成人期」といった

それぞれのライフステージに応じた切れ目のない支援を行うための中核的な支援機関として、保健・福祉・教育・就労の各分野の機関や組織と連携し、継続して専門的かつ総合的に相談支援を行うことを目指しています。

ですので、現在「たんぼぼ」で相談支援を受けている幼児・生徒たちが、年齢を重ね「思春期」「成人期」を迎えた時にも継続した支援を提供できるよう、支援に必要となる専門職の配置や関係機関との更なる連携を進める必要があると考えております。

アナ： 大人になっても同じ場所で相談を聞いてもらえるようになると心強いですね。「たんぼぼ」の今後の充実に期待したいと思います。

ところで、錦田こども園内には児童発達支援事業所「にこパル」もありますが、そちらでの新しい取り組みなどはございますか。

市長： はい。「にこパル」では、昨年度から日中一時支援事業による預かりを開始いたしまして、多くの方にご利用いただいております。

さらに、今年度からは、登降園の管理システムの運用を始めまして、登園時間・降園時間の記録をはじめ、お知らせなどを保護者の皆様のスマートフォンに直接お届けできるようにいたしました。

今後も、デジタルの力を活用することなどで、保護者の皆様の利便性の向上を図るとともに、職員の負担軽減にもつながるよう一層努めてまいります。

アナ： 「たんぼぼ」での発達支援の相談だけでなく、「にこパル」でもお父さんお母さん方を応援する環境が充実してきている様子を伺うことができました。豊岡市長、本日はありがとうございました。

市長： ありがとうございました。